

次世代の医療を担い、地域住民の「頼りがいのある病院」を目指します



限られた設計期間・施工期間の中で、デザインビルドのメリットを最大限活かした「緻密さとスピード感」を併せ持った設計・施工を行います。2026年2月、次世代の医療を担い、地域に根ざした新病院の開院を実現します。

※この概要版は、東濃中部病院事務組合新病院建設事業 設計・施工一括方式による事業者選定公募型プロポーザルにて選定された最優秀提案事業者の技術提案書の概要版であり、今後内容が変更となる可能性があります。

超高齢化・人口減少や感染症拡大等あらゆる将来性に対応出来るフレキシブル・ホスピタルを実現します

01 人口減少などによる将来変化への対応

スタッフ数減少に備えたロボット搬送システム導入への設備対応や、放射線などの診療機能拡張による将来増築への対応など、あらゆる将来変化に対応できる計画とします。

- ・ロボット搬送に対応したEVインターフェイス・充電ステーション
- ・将来増築に備えた増築余地と設備幹線ルートの確保



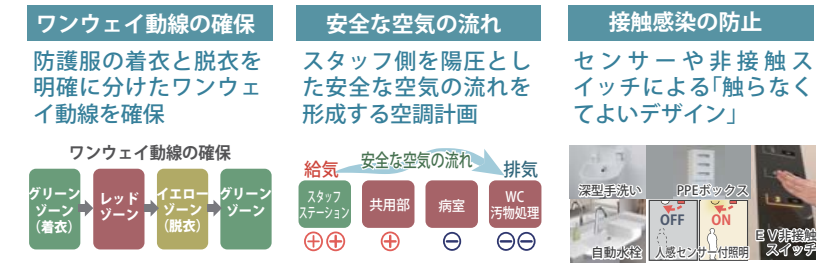
ロボット搬送のイメージ



自動でエレベーターを乗降

02 感染症拡大に対応する段階的なステージが可能な病棟計画

感染症患者の増大に備えステージⅠ→Ⅱと、段階的に感染対応エリアを拡大できる計画を提案します。レッド・イエロー・グリーンの各ゾーンを明確化し、スタッフや入院患者の安全を確保します。

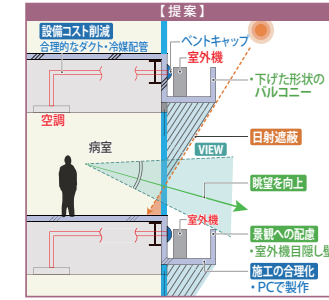


東濃中部新病院に適した建築・設備システムを採用し、「療養環境・災害対応・メンテナンス性・LCC」を最適化します

01 病室環境を向上するバルコニーデザイン

バルコニー形状の工夫による病室への日射遮蔽や、感染症に配慮した手洗いの計画、看護しやすいベッド周りなど、入院患者・面会家族・看護師に配慮したデザインで病室環境を向上します。

- ・病室への日射遮蔽・眺望確保を実現するバルコニー形状
- ・ダクト・冷媒配管を短縮し設備配管コストを削減
- ・療養環境に配慮した病室計画



病室環境を向上するバルコニー

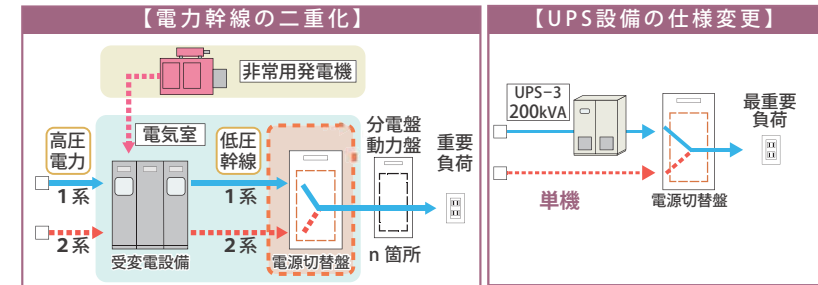


東濃地域の眺望が広がる窓

02 メンテナンス・LCCに配慮した電気設備システムの最適化

電力幹線二重化への対応や、UPS・発電機の仕様を合理化し、メンテナンスおよびライフサイクルコストに配慮した最適な電気設備システムを提案します。

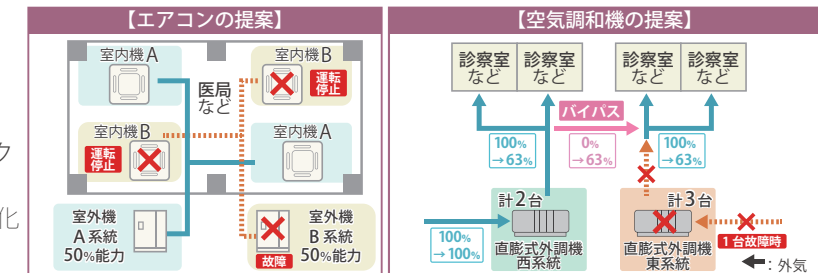
- ・重要負荷に対する電力幹線二重化の対応
- ・UPS設備の仕様の合理化
- ・発電機設備の仕様の合理化



03 災害時運用・LCCに配慮した機械設備システムの最適化

空調システムのバックアップ対応や、中水設備の合理化、ヒートポンプ熱源の採用により、災害時の運用やライフサイクルコスト削減に配慮した最適な機械設備システムを提案します。

- ・設備機器の故障と災害時を想定した空調システムのバックアップ
- ・中水供給範囲の見直しによる院内給水設備水質の統一化
- ・全熱交換器の採用



確かなプロセスを通じて建物生涯にわたる確かな品質を実現します

01 コンクリートの施工品質の向上

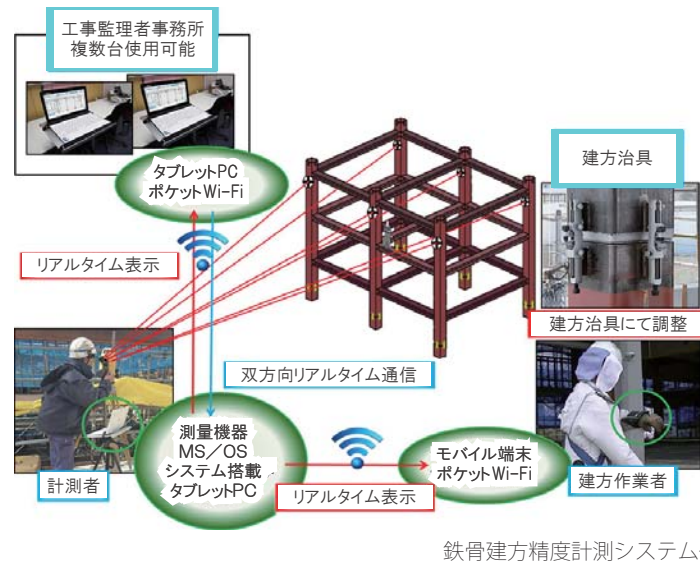
打設順序を変更し、ひび割れ防止対策としてハイパーネットを上乗せ採用することにより、コンクリートの品質向上を図ります。

02 外装材の先行塗装

外装材を工場塗装することにより品質向上を図ります。また、天候による影響をうける工程が工場塗装により工程短縮を図ります。

03 鉄骨の施工精度の向上

鉄骨建て方時に計測システムを採用することで、鉄骨精度の向上を図ります。



鉄骨建方精度計測システム例

多角的視野による品質管理を構築し高品質を実現します

01 WEBカメラによる品質管理

現場現況の見える化により、現況を共有し品質を確保します。

02 検査システムによる品質管理

ICT活用による検査システムの導入により、検査の効率化と検査の見える化を行い品質向上を図ります。

03 造成工事と建築工事の関わり方

造成レベルの形成を行うことで、施工精度の向上を図ります。



WEBカメラ実例

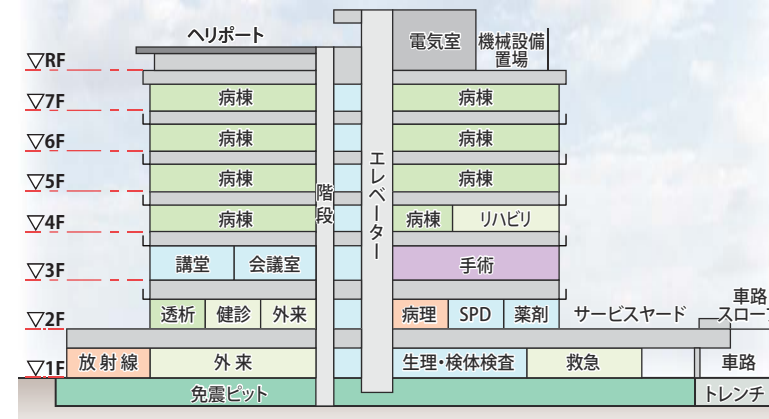


内装仕上検査システム例

建物断面構成

新病院は、地上7階建てとし、低層部に主な診療機能、高層部に病棟、屋上階にヘリポートを配置します。

中央の縦動線(EV・階段)を基軸とし、関連部門間の連携強化を図った機能的な断面計画とします。来院者と職員は1階、救急患者は1階救急ロータリーから、サービス業者は2階から病院内へアプローチする計画とします。

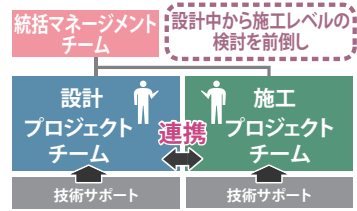


プロジェクト責任者が設計・施工プロジェクトチームをまとめ、対話を重視した体制で事業を推進します

01 統括マネジメントチームが核となり、業務全期間を通じて事業を推進

業務全期間において、統括マネジメントチームが施主と向き合う窓口となり、設計、工事、コストを一括して管理、調整しながらチームを牽引します。

02 対話を重視したプロジェクト体制



設計から施工まで一貫したチーム体制

設計・施工一体の体制による緻密さとスピード感を併せ持った設計により「品質・工程・コスト」の管理を徹底します

01 デザインビルドのメリットを活かしたスピード感ある設計体制

- 設計・施工の各プロジェクトチームを編成し、設計から施工まで一貫したチーム体制で臨みます。
- デザインビルドのメリットを活かし、通常は工事段階に行う施工図レベルの検討を設計段階へ前倒し、病院打合せを同時に行うことで、効率的に施工へ移行します。
- 実物サンプルやモデルの施主確認を設計段階に行うことで高精度かつスピーディな設計を実現します。

02 手戻りをなくす3段階のステップアップ会議+専門分科会による会議体制

03 基本設計開始後、速やかに部門別ヒアリングを実施

04 課題管理シートと完成イメージの共有により要望をもれなく反映



3段階の設計協議と合意形成プロセス

設計・施工業務期間においてコスト増加を抑制します

01 増額に備えた減額項目の確保と、コストアップ要因の抑制

設計各段階でVE・CDを提案し、契約金額の総額に対して、設計変更による様々な増額要素を吸収するための減額調整項目を確保します。コスト影響が大きい構造躯体コスト(30%)や設備コスト(40%)を設計初期段階から重点的に検証し、早期に減額調整項目を確保します。

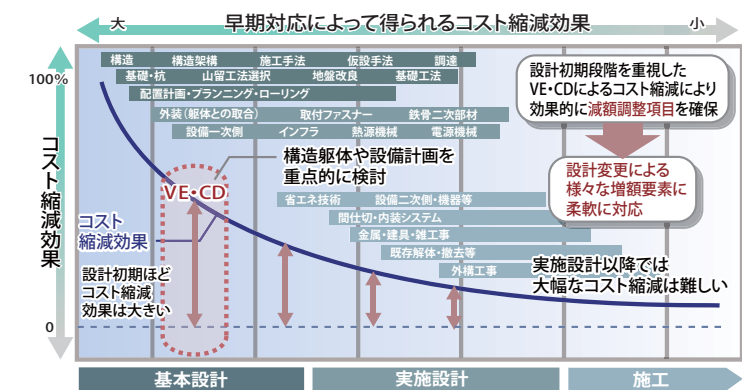
02 設計変更でも増減なしを実現

03 施工段階でのコストコントロール

04 適切なVE提案

05 具体的なイメージの共有

06 建築資材高騰抑制への取組



コスト削減効果が高い設計初期のVE・CD計画

工事を市内・県内業者に発注することにより新病院建設を通じて、市内・県内経済の発展に貢献します

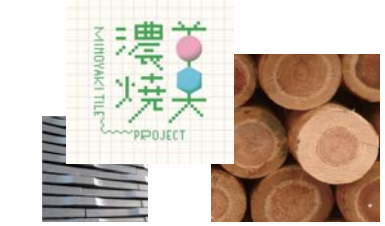
01 市内・県内企業とのパートナーシップの確立

02 地元産業への貢献

木材は岐阜県産等を積極的に採用します。また、エントランス・外来の内壁や出入口の外壁に美濃焼のタイルを使用し、伝統的な意匠性と高い機能性を付随します。

03 市内事業者等の活用に対するモニタリング体制の構築

- モニタリング手法について、工事においては各建設業者の注文書・施工体制台帳等で確認します。建材資材・日用品等は、各業者からの請求書・領収書により確認します。
- モニタリング体制として、各下請け業者からの報告による確認を履行します。
- モニタリングを実施しその結果を記載した報告書を作成します。



タイルイメージ・県産木材イメージ図